

「医師・看護婦・歯科医師・薬剤師・医療技術者のための アメリカ医学留学の手引 第5版」

日本大学医学部講師・神経内科 大石 実
大石 加代子

広島大学医学部教授・保健学科

中 西 睦 子

タイトルの示す通りずばり実用書の書である。そうでありながら、これが読んでいたいへんおもしろい。なぜかという、いつもは医療関係職として一括されていたさまざまな職種に近くて遠い情報が、ここでは一挙に1つの全体像を結ぶ。例えばアメリカ医学界の専門分化の構図とか、医学留学のためにお金を出す基金のリストとか、薬剤師教育の複線的なシステムとか、これまで断片的にしか知らなかった隣の事情が手にとるようにわかるようになる。それによって、“みんなたいへんなのね”という共感と理解が生まれてくる。これは単なる副産物ではなくして、著者の深淵なる意図かもしれない。

構成は、まずは医師の留学から始まり、看護婦の留学、歯科医師の留学、医療技術者の留学と続く。ここまでは既に免許を持ったそれぞれの専門家の海外研修が念頭に置かれている。周知のように、留学には越えなければならないいくつものハードルがある。むろん語学試験もその1つである。この本はそうしたいくつものハードルを賢明に越える方途を、受け入れ側のシステムを詳述することによって職種ごとに丹念に示

してくれる。そして職能団体や監督機関、斡旋機関など、関連機関へのアクセスをさりげなく勧め、連絡先を示すなどたいへんにゆき届いている。

続く章の医療関連学校への留学では、それぞれの専門家になるための基礎教育を最初からアメリカで受けるとすればどうなるかが解説される。ここでは、はからずも向こうの国の教育システムについて包括的に知ることになる。そしてビザの取り方、留学準備、アメリカでの生活と、事柄のプロセスに沿った章立てで、各章とも実にむだなく機能的に明快に解説され、外国語で終章となる。

この外国語という章の内容が、まずは英語の手紙から論文の書き方、校正の仕方に至るまで留学という一時的なライフスタイルの目的に即した実用的な内容でおさえられているのに加え、英語に限らず世界の主要言語の発音規則が紹介されたりして、読者の知識が広がる。更にドイツ語・フランス語の基本単語、医用単語、日常の簡単な会話、および診療場面で定型的な会話がカバーされている。

全体として、これは基本的に重要ですという事柄が的確に提示され

ており、本書に沿って計画し、行動すれば、留学の障壁は難なく越えられそうな気がしてくる。そのみならず、巻末の資料を含めて周辺情報もいたって豊富で、ある種のバランス感覚を与えてくれる。こういう情報は、おそらく留学にはつきものの予想外の事態に際して、状況判断を誤らないために役立つのではないか。そうした意味でまさに優れた手引き書である。

隅々まで明快な本書において、著者はほとんど顔を出さないが、各章の冒頭に飾られる謎めいた合成写真——それはたいいて近代を象徴する主要都市の建造物を遠景とし、動物を近景とする——が、唯一著者の心象を探る手がかりになっている。

最後に看護からみると、この世界はこれまで高等教育の機会を社会的に閉ざされてきたため、アメリカの大学院への留学が多いのが現状だが、それについての情報は少ない。これは自分達でちゃんとまとめなさいというメッセージと受けとめよう。

● A5 頁272 図27 写真10 1993
定価3,914円(税込) 円400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)